

# 年 頭 所 感



支部長 早稲田 高茂

支部会員の皆様には、未曾有の悲しみと苦しさをもたらした東日本大震災で無我夢中のまま平成23年が終わり、復興元年といわれる24年の新春を心新たに迎えられたことと思います。ご家族、ご友人との関わり、ふれあいを今まで以上に強く感じながら、行く年を送り、新しい年を迎えられた方が多かったのではないのでしょうか。一方で被災しなかった地域では予算の凍結・縮小、工事発注の遅れなど震災の2次被害ともいべき影響で、大変厳しい一年であったとの声が多く聞かれました。

多くの犠牲者、被災者を出した大震災は、地域にも私達の心にも大きな傷跡を残しました。そのような公私共に大変な状況のなか、協会としての被災者支援活動に対する並々ならぬご協力、また寝食を惜しんで地域の復旧に取り組まれた会員皆様のご努力にあらためて心より感謝と敬意を表します。

さて昨年の協会運営ですが、12月に支部活動の大きな節目である委員会活動報告会も開催できました。本部と東北地方整備局との意見交換会が正副会長・専務理事による局長以下幹部への表敬のみとなるなど、一部の事業が中止・延期となりましたが、各委員会の活動はもとよ

り、実質今年度からの新規事業として始めました「舗装施工管理者資格試験制度」や「アスファルト混合物事前審査」も順調に推移、また震災復興に関連し関係機関と意見交換を行なうなどほとんどの事業活動は初期の目的を果たすことができました。あらためて会員各位ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また大震災の後、災害時の避難路としてまた救援支援物資の輸送路として道路が果たした「命の道」としての役割が大きく評価されました。私達は、地域の安心・安全を担保しなければならないという声が多く悲しみや苦しみから沸きあがったことを真摯に受け止め、その声を風化させることなく早急に道路ネットワークの実現に取り組むことが私達の使命であると思っています。

いよいよ本格的な復興が始まろうとしていますが、一方で人手や資機材不足や価格の高騰といった課題も顕在化してきています。これらの課題を克服し、会員一社一社、一人一人が被災者としての悲しみや苦しみを共有し、地域の復興・再生へむけて全力で邁進する年にしましょう。今年も、なにとぞ皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。